

大谷大学 学士課程の教育方針【2024年度以降入学生適用】

2024年1月16日制定

1. 教育目標（人物養成上の目的）

各学部の人物の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1)文学部は、歴史の中で蓄積されてきた多様な文化的所産に学ぶことを通して、人間と世界に関わる根本的な問題を解明し、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物の養成をめざす。

(2)社会学部は、現代社会の諸課題に向き合うことを通して、地域社会など身近な場において、異なる他者と敬い合いながら生きることのできる世界を構築する構想力と実践力を身につけた人物の養成をめざす。

(3)教育学部は、純真な人格形成を目指す高い教職意識と責任感を持ち、社会的常識や対人関係能力を備えて子どもたちの声に耳を傾けることのできる、慈育の精神に富んだ専門職業人の養成をめざす。

(4)国際学部は、グローバル社会において、建学の精神に基づいて自己のアイデンティティを確立し、多様な他者の存在に気づき、寄りそうことのできる人物の養成をめざす。

2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー DP）

本学は、学部、学科（教育学科のみコース）ごとに卒業時に学生が身につけるべき下記の能力（教育研究上の目的）を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。

<卒業時に身につけておくべき能力（教育研究上の目的）>

DP分類	DP		コンピテンス（DPを構成する要素）		
全学共通DP	DP1	汎用的言語能力	文章・発言を明確に理解し、意思・事実を適切に表現することができる。		
			01 読む	記述された内容を明確に理解することができる。	
			02 書く	意思・事実を適切に書き表すことができる。	
			03 聞く	発言された内容を明確に理解することができる。	
	04 話す	意思・事実を適切に言い表すことができる。			
	DP2	知識・教養（知識の獲得）	自律して知識を適切に獲得することができる。		
			01 社会的職業的自立に係る教養	社会的自立を理解し、主体的に生きるための職業的知識を身につけている。	
			02 自然科学に係る教養	世界を理解するために必要な自然科学の知識を身につけている。	
			03 人文社会科学に係る教養	世界を理解するために必要な人文社会科学の知識を身につけている。	
			04 ICTに係る知識	多様な情報を適切に扱うために必要なICT等の知識を身につけている。	
			05 自己理解	自律的に課題に取り組むために、自らを客観的に捉えることができる。	
			06 他者理解・共感	他者の立場に立った観点で、他者の考えを客観的に捉えることができる。	
	07 多様性理解	様々な観点をふまえて課題に取り組むために、広く性質の異なった対象の存在を適切に捉えることができる。			
	DP3	思考・技能（知識の活用）	自律して知識を適切に活用することができる。		
			01 分析的思考	課題発見・解決のために、対象を適切に把握・検討することで、理想的なあり方を模索することができる。	
			02 批判的思考	課題発見・解決のために、対象を色々な観点から検討し、異なる立場を適切に説明することができる。	
03 論理的思考			課題発見・解決のために、対象を理路整然と捉えて、意見や手順を適切に構築することができる。		
04 創造的思考			課題発見・解決のために、対象の問題を見出し、対処する方法を生み出すことができる。		
05 コミュニケーション			他人の意見を明確に理解したうえで、それに対する自分の意見を適切に表現することができる。		
06 プレゼンテーション			必要な情報や議論の内容を検討し、自らの考えを聞き手に伝わりやすく提案することができる。		
07 協調・協働			共通の目標を達成するために、互いの考えを尊重しあって、課題に取り組むことができる。		
08 情報リテラシー	課題発見・解決のために、様々なメディア・文献・ICT等を用いて、多様な情報を効果的に収集・分析して適切に活用・発信することができる。				
専門分野別DP	DP4	専門的な知識	全学共通	00 建学の理念に係る基本的理解	本学の学修基盤となる精神・考え方について理解している。
				親鸞思想を理解する上で重要な人物・文献・歴史についての知識を身につけている。	
			真宗学科	01 真宗の体系的理解	真宗の教えについての体系的な知識を身につけている。
				02 仏教思想	仏教思想についての知識を身につけている。
				03 親鸞思想	親鸞の生涯と親鸞の著述にあらわされる思想についての知識を身につけている。
				04 親鸞思想の背景	親鸞思想の背景にある経典や七高僧の著作についての知識を身につけている。
				05 親鸞思想の展開	親鸞以降における親鸞思想の受容と展開についての知識を身につけている。
				06 真宗史	真宗思想史や真宗教団の歴史的展開についての知識を身につけている。
				07 真宗典籍書誌	真宗文献の読解や親鸞思想の考察に資する真宗典籍の書誌についての知識を身につけている。
				08 他宗教と真宗	諸宗教の内容と歴史を学び、幅広い観点から親鸞思想を考察するための知識を身につけている。
			仏教学科	ブツダの思想を理解する上で重要な思想・歴史・文献についての知識を身につけている。	
01 仏教思想	仏教思想についての知識を身につけている。				
02 仏教の展開	インド仏教の様々な思想潮流を踏まえ、各地への伝播と独自の展開について理解している。				
03 現代社会における仏教	現代社会の状況と問題点を把握し、新たな仏教の思想潮流を理解している。				
04 仏典の知識	仏教典籍について、思想・歴史の点から体系的に理解している。				
05 仏教文献の言語知識	仏教文献を読解するために必要な基礎的な言語知識を身につけている。				

大谷大学 学士課程の教育方針【2024年度以降入学生適用】

2024年1月16日制定

DP分類	DP		コンピテンス (DPを構成する要素)	
専門分野別DP	DP4	専門的な知識	哲学の学修・研究に重要な知識を身につけている。	
			01 哲学の知識	西洋の哲学・思想に関する専門的な知識を身につけている。
			02 哲学史の知識	西洋の哲学史・思想史に関する専門的な知識を身につけている。
			03 東西の哲学的伝統	西洋の哲学・思想との関連のなかで非西欧圏に生じた哲学・思想（日本哲学等）を理解している。
			04 現代の哲学的諸問題	現代社会が抱える哲学的・思想的な問題を理解している。
			05 哲学研究の方法	哲学・思想研究に関する方法を理解している。
			歴史学一般をふまえ、日本・世界の歴史、及びそれと不可分な宗教・思想について、専門的な知識を身につけている。	
			01 歴史学一般	日本と世界各地の歴史、及び宗教・思想について、歴史的背景に由来する課題の発見・解決に重要な知識を身につけている。
			02 専門的文献理解	歴史的史料を適切に読み解き、客観的に分析・解釈するための専門的な知識を身につけている。
			03 専門的情報収集	歴史的状況・史料の分析・解釈を行う上で重要な情報を収集するための専門的な知識を身につけている。
			日本文学・中国文学を中心に文学の学修・研究にとって重要な知識を身につけている。	
			01 専門的知識・教養	書誌的知識と作品理解に重要な文化・歴史について高度な教養を身につけている。
			02 専門的文献理解	作品・文献に表現された言表・言説を客観的に理解・解釈するための高度な知識を身につけている。
			03 専門的情報収集	作品・文献の解釈・分析を行う上で重要な情報を収集するための高度な知識を身につけている。
			現代の社会文化事象について、社会学の理論的枠組みや概念を用いて適切に理解することができ、様々な社会現象や社会問題の関連性を解明するための多角的な視点や知識、論理的思考力を身につけている。	
			01 社会学の基本的な理論と概念の理解	社会学の基本的な理論枠組みや概念を理解している。
			02 公共社会の視点に基づく社会学的思考	公共社会の視点を通して、現代社会の諸相を分析し理解することができる。
			03 人間関係の視点に基づく社会学的思考	人間関係の視点を通して、現代社会の諸相を分析し理解することができる。
			04 現代文化の視点に基づく社会学的思考	現代文化の視点を通して、現代社会の諸相を分析し理解することができる。
			05 現代の社会現象や社会問題の理解と課題発見	現代の様々な社会現象や社会問題に関する知識を身につけ、多角的な視点からそれらの関連性を考察し、自らの研究課題に取り組むことができる。
			地域社会・コミュニティに関する様々な専門知識に加え、行政や政策、社会福祉、情報、メディアなどの専門知識について、地域での実践との関わりをなかで総合的に理解している。	
			01 コミュニティ	都市・農村などの地域社会・コミュニティの現状を理解している。
			02 調査・分析	社会現象を経験的に調査し結果を分析するための知識・方法を身につけている。
			03 社会変革の動きと政策提言	地方自治体や実践現場に対する政策提言を視野に入れ、社会運動・運動体が掲げる理念と具体的な実践、プロセスを理解し、説明・考察することができる。
			04 地域環境と人々の暮らしや社会	地域の自然環境・社会環境の特性と課題を理解し、それらが人々の暮らしや社会に及ぼす影響と地域活性化にむけた方策を説明・考察することができる。
			05 社会福祉・社会保障の政策	社会福祉・社会保障の政策について成立過程を理解し、内容を説明することができる。
			06 社会福祉の実践・理念・哲学	社会福祉の理念・哲学を基盤とした社会福祉実践を理解し、具体的実践力を身につけている。
			07 情報・メディア・コミュニケーション	情報・メディア・コミュニケーションの現代的な状況について調査・分析し、その特質について多角的に考察することができる。
			08 文化・表象	文化が社会的な関係性の中からどのように生み出され、それが社会をどのように維持したり変動させたりするかを説明・考察することができる。
			初等教育に関する専門的知識を身につけている。	
			01 教育原理及び基本概念	教育を構成する概念や歴史性を理解し、説明することができる。
			02 教育の目的	教育の目的についてのこれまでの教育実践・言説に学び、これからの教育の目的（人間像・教育目標）を設定し、説明することができる。
			03 教育の歴史	歴史的な教育の問題や課題の生成過程を理解し、説明することができる。
			04 社会・文化の多様性	教育事象はその社会や文化の多様性によって生み出されたことを理解し、教育の可能性を模索することができる。
			05 学習過程と教育的介入	様々な学習理論の知見を学び、学習の成立と教育的介入行為について考察し、説明することができる。
			06 教育と社会の相互関係	現在の教育事象に見られる格差・貧困や排除の問題の関係を理解し、説明することができる。
			保育・幼児教育に関する専門的知識を身につけている。	
			01 発達理解	乳児期、幼児期、学童期以降の発達過程についての知識を有するとともに発達の個別性について理解している。
			02 保育に関する基礎的事項	保育・幼児教育の意義、理念、歴史、制度についての知識を有するとともに、子どもを取り巻く社会状況と取り組みについて理解している。
			03 子どもの生活と健康・安全	子どもの生活や健康・安全に関する基本的な知識を有するとともに今日的課題について理解している。
			04 保育内容	保育・幼児教育における保育内容を理解し、子どもの発達過程に合わせて展開するための知識・方法を身につけている。
			05 保育の計画と評価	保育・幼児教育における計画と評価の意義を理解し、指導計画・支援計画及び記録について知識・方法を身につけている。
06 特別な配慮が必要な子ども	障害や異文化等多様なニーズについての知識を有し、保育を構想するための方法について理解している。			
07 子育て支援・地域連携	家庭における子育ての意義と今日的課題について理解し、その支援のための方法や連携についての知識を身につけている。			

大谷大学 学士課程の教育方針【2024年度以降入学生適用】

2024年1月16日制定

DP分類	DP		コンピテンス (DPを構成する要素)					
専門分野別DP	DP4	専門的な知識	国際文化学科	欧米とアジア地域の文化の成り立ちや多様性を理解し、多文化共生に必要な知識を身につけている。				
				01 地域の文化・歴史・社会に関する知識	欧米やアジア地域の文化・歴史・社会について専門的な知識を身につけている。			
				02 多文化共生に関する知識	多様な文化的背景を持つ人々が違いを認め合い、対等な関係で共に生きる社会を構築するための知識を身につけている。			
				03 グローカリゼーションに関する知識	グローバルな世界とローカルな地域社会を結びつける視点に立ち、文化や社会について考察するための知識を身につけている。			
					04 文化事象の分析方法	地域文化研究や比較文化研究の視点から、文化事象を読み解く方法についての知識を身につけている。		
		DP5	専門的な技能	真宗学科	真宗・仏教文献の読解方法を身につけ親鸞思想を把握し、自己を問い、人間を問い、思索したことを表現することができる。			
	01 専門的文献読解力				真宗・仏教文献を読解するために必要な言語知識を用いて、文献を丁寧に読み解くことができる。			
	02 主体的問題提起力				真宗の教えを自らの生き方の上に主体的に聞き、自己・人間・社会の本質的な問題の所在を明確にすることができる。			
	03 主体的考察力				真宗の教えを自らの生き方の上に主体的に聞き、自己を問い、真の依り処とは何かを考察し、明らかにすることができる。			
							04 論理的表現力	真宗の教えに基づいて思索した内容を、他者に対して、様々な表現方法を用いて論理的に説明することができる。
						仏教学科	仏教文献の読解方法、及び仏教の視点から現代社会の問題を解き明かす思索方法を用いて、仏教に関する知見を的確に表現することができる。	
							01 仏教文献の読解力	必要な言語知識を用いて、仏教文献を読解することができる。
							02 仏教思想を基盤とした思索能力	現代社会の現状と問題点を把握し、仏教の果たし得る役割について考えることができる。
							03 専門的表現力	仏教研究・思索により得られた知見を、様々な技法を用いて的確に表現することができる。
						哲学科	専門的な知識を、哲学の学修・研究に活かすことができる。	
							01 問題発見力	複雑に重なり合う事象のなかから、本質的な問題を適切に取り出すことができる。
							02 重層的思考力	ひとつの観点にとらわれることなく、問題を様々な側面から重層的に考えることができる。
							03 文献読解力	日本語で書かれた哲学・思想関係の文献を精密に読み、正確に理解することができる。
							04 外国語文献読解力	外国語で書かれた哲学・思想関係の文献を精密に読み、正確に理解することができる。
							05 論理的表現力	自己の思索を体系的に整理し、他者に対して順序立てて説明することができる。
						歴史学科	歴史的な事象や現代社会における課題の歴史的背景等について、専門的な知識を用いて考察し、得られた知見を論理的に表現することができる。	
							01 専門的思考力	専門的知識を活用して、歴史的な事象を客観的に判断し、歴史学の解明すべき課題を指摘することができる。
							02 課題解決力	歴史的な事象の関係を、史料・文献に拠って的確に把握し、客観的に課題を解明することができる。
							03 専門的リテラシー	専門的知識をふまえ、史料・文献を適切に読解することができる。
							04 専門的コミュニケーション力	先行研究の言説を広く把握し、批判的・継承的に応えながら、自らの学修・研究成果を論理的に表現することができる。
						文学科	研究課題を見出し、専門的知見を駆使して、解明に向けた思索を論理的に表現することができる。	
							01 課題発見力	専門的知識を活用し、作品・文献の課題を的確に見出すことができる。
							02 課題解決力	専門的知識を応用し、課題を客観的に判断して解明の方途を考察することができる。
							03 専門的情報力	課題発見・解決に有益な情報を収集し、得られた知見を適切に活用することができる。
							04 専門的コミュニケーション力	先行研究の言説を広く把握し、批判的・継承的に応えながら、自らの学修・研究成果を適切に表現することができる。
						現代社会学科	現代社会の課題や問題を発見し、その解決策を構想するための調査・分析手法を身につけるとともに、多様な他者とのコミュニケーションや協働を適切に進めるための実践的な調査スキルや研究倫理を修得している。	
							01 社会調査とデータ分析のための実践力	社会的な調査方法の基礎的な技術を修得し、調査計画を立案することができる。
							02 質的調査実践力	フィールドワークを実施するための計画の立案、調査対象との調整を行い、その成果を分析することができる。
							03 量的調査実践力	アンケート調査等を実施するための計画の立案、データの収集、統計的なデータ解析を行い、その成果を分析することができる。
							04 社会学領域の文献および史資料の分析力	先行研究の理論的背景や方法論を修得し、それらを自らの研究目的に沿って収集した文献や史資料を用いて応用することができ、適切な研究倫理のもとで自らの研究課題に取り組むことができる。
						コミュニティデザイン学科	実践活動を行っていく上で必要とされるマネジメント力、社会調査技法、データ分析の技能や技術を身につけている。	
							01 プロジェクトマネジメント力	学内外の関係者と協働して作業や意見交換をし、調整や取りまとめができる。
							02 専門的文献読解力	テーマに応じた文献を検索し、読解することができる。
							03 社会調査技法	テーマに応じた適切な社会調査技法を用いて質的・量的調査を設計し、実施することができる。
							04 データ分析力	社会調査（質的・量的）によって収集したデータを適切に分析・考察し、得られた知見を地域に還元することができる。
						教育学科 初等教育コース	初等教育に関する専門的スキルを身につけている。	
							01 批判的考察力	教育事象について関連文書を収集・解読し、分析・考察することができる。
							02 教育的営みの構想力	教育目標を吟味し、実現するための内容・方法を構想・具体化することができる。
							03 効果的コミュニケーション力	教育的な取り組みにおいて、言語や非言語的手段を使って、効果的なコミュニケーションをすることができる。
					04 教育的合意形成力		教育に関する様々な意見に対して、合意を形成するよう働きかけ、チームで協働するなかで、自分の役割を果たすことができる。	
						05 社会形成力	教育について得た知識理解や能力を生涯にわたり更新・再構成し続けることができる。	

大谷大学 学士課程の教育方針【2024年度以降入学生適用】

2024年1月16日制定

DP分類	DP		コンピテンス（DPを構成する要素）		
専門分野別DP	DP5	専門的な技能	教育学科 幼児教育 コース	保育・幼児教育に関する専門的スキルを身につけている。	
				01 総合的実践力	保育・幼児教育に関する専門的知識を総合的に活用しながら、子どもの生活と成長を支える保育を組み立て、実践することができる。
				02 総合的表現力	保育・幼児教育の場において、適切な表現方法を選んで組み立て、効果的に表現することができる。
				03 子ども・保護者とのかかわり	保育・幼児教育に関する専門的知識を生かし、子どもと適切にかかわり、保護者を支援することができる。
				04 保育者としての協働性と遂行力	多様な考えを持つ同僚や仲間との協働、外部機関との連携を通して他者と対話し、共に保育に取り組むことができる。
				05 自己評価	経験をふりかえることで学びのプロセスを自覚し、向上心をもって、自らの課題に取り組むことができる。
			国際文化 学科	保育者としての使命感・倫理観	保育者としての倫理観に基づき、子どもの最善の利益の追求へむけて使命感をもって保育に取り組む姿勢・態度を示すことができる。
				文化事象にかかわる専門的資料を読みこなし、その内容に基づいた分析や考察を的確に他者に伝えるコミュニケーション力を身につけている。	
				01 専門的日本語資料の読解力	文化事象にかかわる高度な内容の日本語資料を読み、理解することができる。
				02 専門的外国語資料の読解力	文化事象にかかわる高度な内容の外国語資料を読み、理解することができる。
				03 専門にかかわる情報収集力	文化事象にかかわる外国語・日本語の一次資料や二次資料を適切かつ効果的に収集することができる。
				04 文化事象についての分析・考察力	自ら設定した課題解決のために、収集した資料をふまえて、文化事象を適切に分析し、深く考察することができる。
				05 専門的コミュニケーション力	外国語や日本語で自分の考えを分かりやすく伝え、他者の意見を聞き、協働して議論を発展させることができる。
				06 論理的表現力	適切な分析方法を用いて考察した文化事象にかかわる課題について、論理的な文章を作成することができる。

3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下に示す3つの科目群（共通基礎、学科専門、現代総合）を基盤とした教育課程をもうける。教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等を適切に組み合わせて実施する。また、授業科目と「卒業認定・学位授与の方針」に定めた能力の対応関係を示す「履修系統図」、授業科目の水準等を示す「ナンバリング」によって、「卒業認定・学位授与の方針」とカリキュラムの整合性や体系性を明示する。

そして、履修系統図に基づき設定された各授業科目の到達目標に対する厳格な授業評価と口述試問を含めた卒業研究の結果を総合的に評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか学修成果を判断する。

共通基礎科目

「卒業認定・学位授与の方針」における汎用的言語能力（DP1）、知識・教養（DP2）、思考・技能（DP3）の修得を目指し、教育目標を達成するための根幹をなす科目を各専門共通の基礎科目として開講する。

共通基礎科目では、主として1～2年次に、ブツダと親鸞の基本思想を通して人間について考える【総合科目】「人間学Ⅰ・Ⅱ」、高校までの学びから大学の学びへの転換と専門への接続をはかる【大学導入】「学びの発見」、およびグローバル化時代の共通言語である英語をはじめ、様々な言語を学びながら文化の多様性に触れる【外国語】を学修する。

学科専門科目

「卒業認定・学位授与の方針」における専門的な知識（DP4）、専門的な技能（DP5）の修得を目指し、学科・コースごとに専門的な科目を学科専門科目として開講する。

学科専門科目では、主としてコース決定を行う2年次以降に（教育学科のみ入学試験段階でコース決定を行う）、専門の体験的理解を促す【講義】や、知的探究心を呼び起こす【実践研究】、自らの課題を専門分野の視点から問い直し発表と議論を通して研究を深める【演習】を学修し、これらの学びをふまえて4学年次に【卒業研究】を作成する。

現代総合科目

「卒業認定・学位授与の方針」における知識・教養（DP2）、思考・技能（DP3）の修得を目指し、幅広い現代教養（【キャリア形成系】・【自然生命系】・【歴史文化系】）を深める、あるいは専門分野を補完する科目を現代総合科目として開講する。

現代総合科目では、主として1～4年次にわたって、各自の興味や関心にあわせて3つの系ごとに自由に科目を選択し学修する。

≪文学部 真宗学科≫

真宗学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

真宗学における知識、読解、思考、表現を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

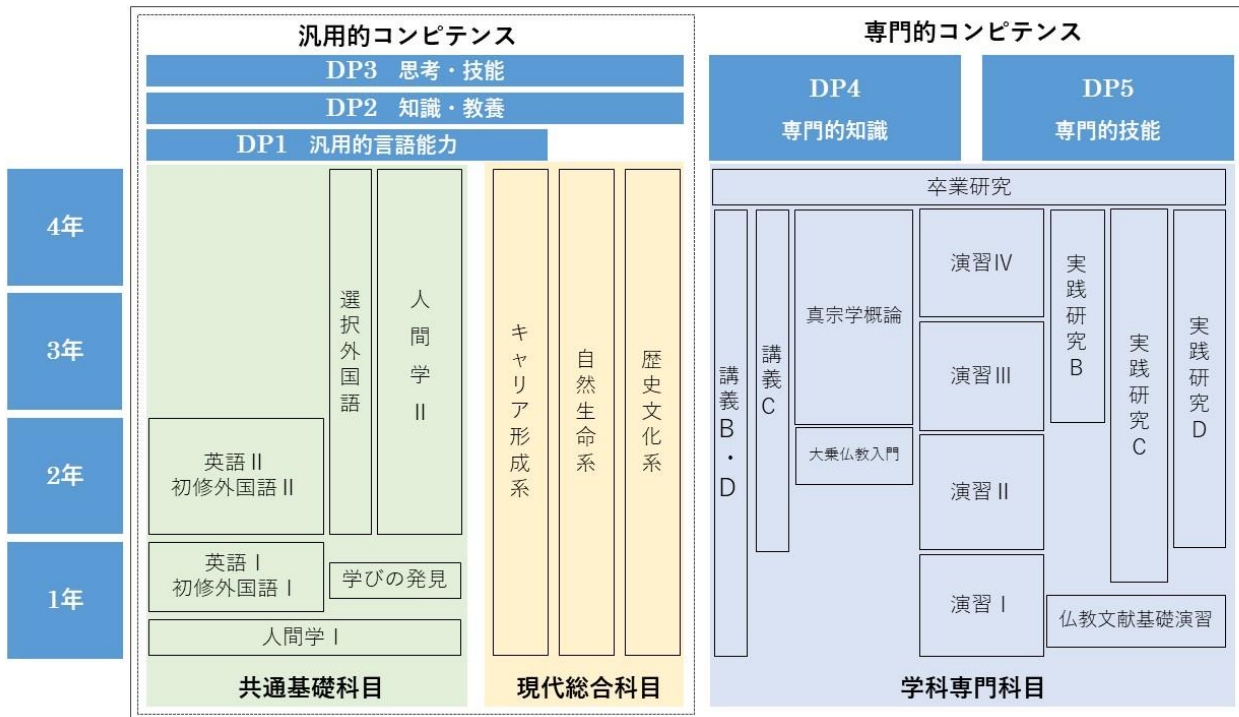
1年次には、親鸞の生涯と基本思想を学ぶ「演習Ⅰ」を中心に、真宗・仏教文献の基礎的な読解法を学ぶ「仏教文献基礎演習」等を通じて、知的探究心をもって真宗・仏教の諸文献を読解する力を身につける。2年次には、各コースに分かれ、その特性を活かした学びを行う。『歎異抄』の読解を通じて真宗研究の基本的方法を学ぶ「演習Ⅱ」を中心に、大乘仏教の基本思想を学ぶ「大乘仏教入門」、真宗学とその周縁に位置する思想を学ぶ【講義】、浄土教思想に関連する経典や著作を読解する【実践研究 C】を通じて、広やかな視点から真宗の理解を進める。3年次には、真宗学の体系的理解によって専門的・主体的な学修の深化を促す「真宗学概論」、各コースの専門的知見を深める「演習Ⅲ」、主体的な学びの態度を養う【実践研究 B】等を通じて、真宗の理解を深める。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やところへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

専門領域と関係の深い【歴史文化系】に開講している人権問題関係の科目を履修することで、仏教・真宗の視座から人権問題を考察する力を培う。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

≪文学部 仏教学科≫

仏教学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

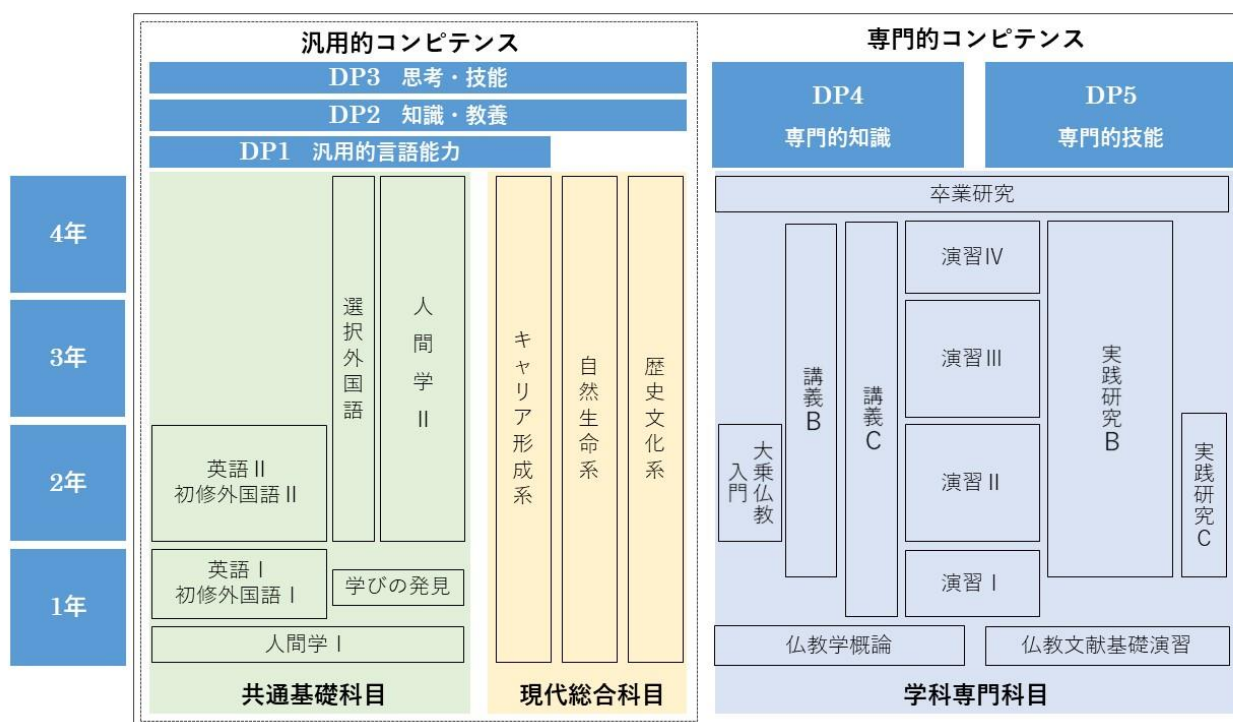
仏教の思想や文化などを段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、「仏教学概論」等を通じて、仏教を概観するとともに個別の課題を学問全体の中に位置づけ、専門に関する体系的理解を図る。また、「仏教文献基礎演習」によって原典を直接読解する力を養う。2年次には、「大乘仏教入門」によって、大乘仏教の概略を把握するとともに、本格的に学科の学びに取り組む。2年次より各コースに分かれ、【講義B】では思想と歴史を学び、【講義C】では仏教と周辺諸学との関係を学んでいく。そこで学んだ内容を【実践研究B】で実際に試みていく。また、【実践研究C】では、「サンスクリット語」等の語学や「臨床フィールドワーク」によって、生の素材に触れるための基礎力を養う。3年次には、それまで学んできたことをさらに広げるとともに、「卒業研究」のテーマを絞り込んでいく。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やところへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

≪文学部 哲学科≫

哲学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

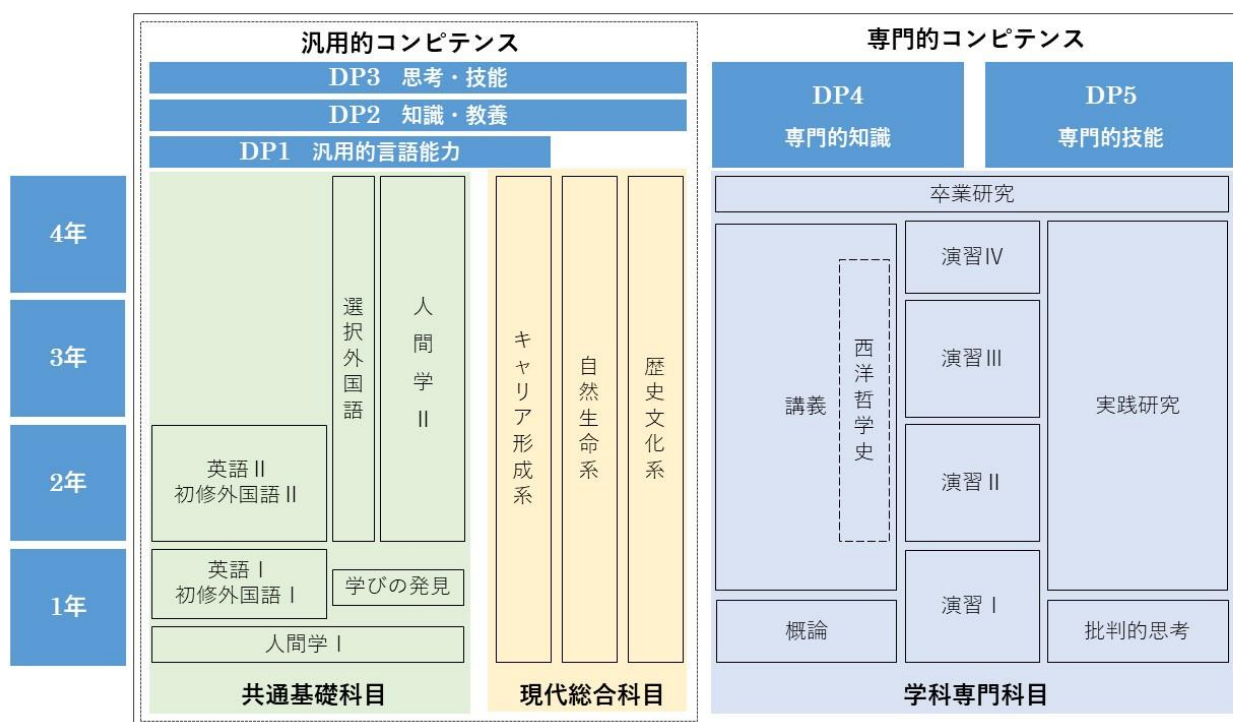
哲学における文献読解、思考、表現の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。【演習】は、1年次では数クラスに分けられた各クラスの前期と後期を別のコースに所属する教員が担当し、2年次から各コースに分かれる。

【演習】以外では、1年次は、哲学的な思考能力を養成する「批判的思考」、哲学の基礎知識を得る【講義B】、各専門分野の概括的な理解を得る【概論】等を通じて哲学の基礎的教養を得る。2年次には、文献読解に必要な語学力・読解方法等を身につける【実践研究B】、哲学的問題の史的理解を目指す【講義A】（「西洋哲学史」）等を通じて哲学に関する理解を促進する。3年次には、専門的な知見と研究方法の修得を図る【講義】【実践研究】等をさらに履修し、卒業研究に必要な能力を総合的に高める。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やこころへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業としており、特に 1 年次においては、学生を数クラスに分け、それぞれ前期と後期を別のコースに所属する教員が担当し、2 年次からのコース分けに向けて学生が準備できるようにしている。

また各授業科目において、その方法をあらかじめシラバスに明示したうえで、グループ学習やレジュメの作成、さまざまな機器を使用したプレゼンテーションといったアクティブラーニングの方法を取り入れる。同様に、教員と学生の双方向的な意見のやりとりを含む正確な文献講読、学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを適切に取り入れる。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それによって厳格に学習成果を評価する。

学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置づける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に判断する。

≪文学部 歴史学科≫

歴史学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

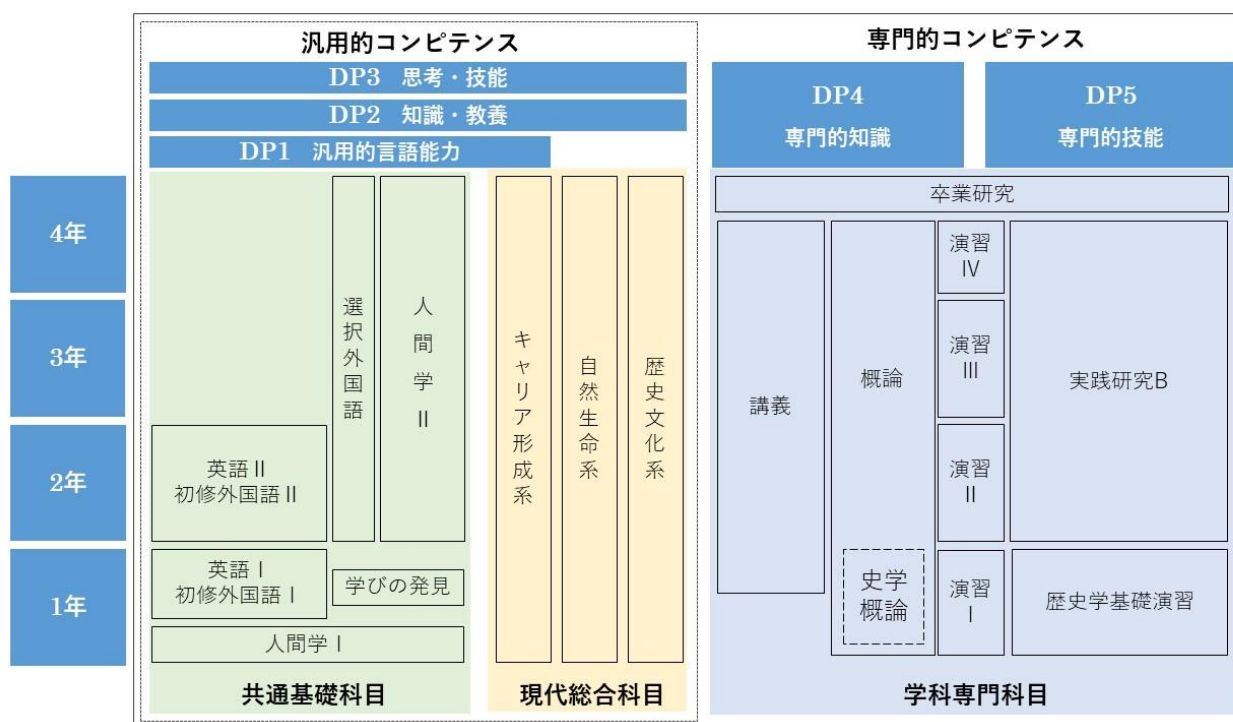
歴史学における読解、思考、表現の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、歴史学研究の基礎的技法を修得する「歴史学基礎演習」や、歴史学の概括的な理解と専門知識を養う「史学概論」等を通じて、コース選択を主体的に行う能力の養成と専門に関する体系的理解を図る。2年次には、各コースに分かれ、それぞれの領域に関わる専門知識を養う【講義】、また、史料読解や文化財調査、史跡踏査などの専門的技法を実践的に学ぶ【実践研究B】等を通じて、各コースの専門領域に対応した知識や技能を養う。3年次には、より多くの【講義】や【実践研究】を通じて、専門知識や技能をさらに修得するとともに、思考力や表現力の向上をも目指す。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やところへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は20名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それによって厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため2年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

≪文学部 文学科≫

文学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

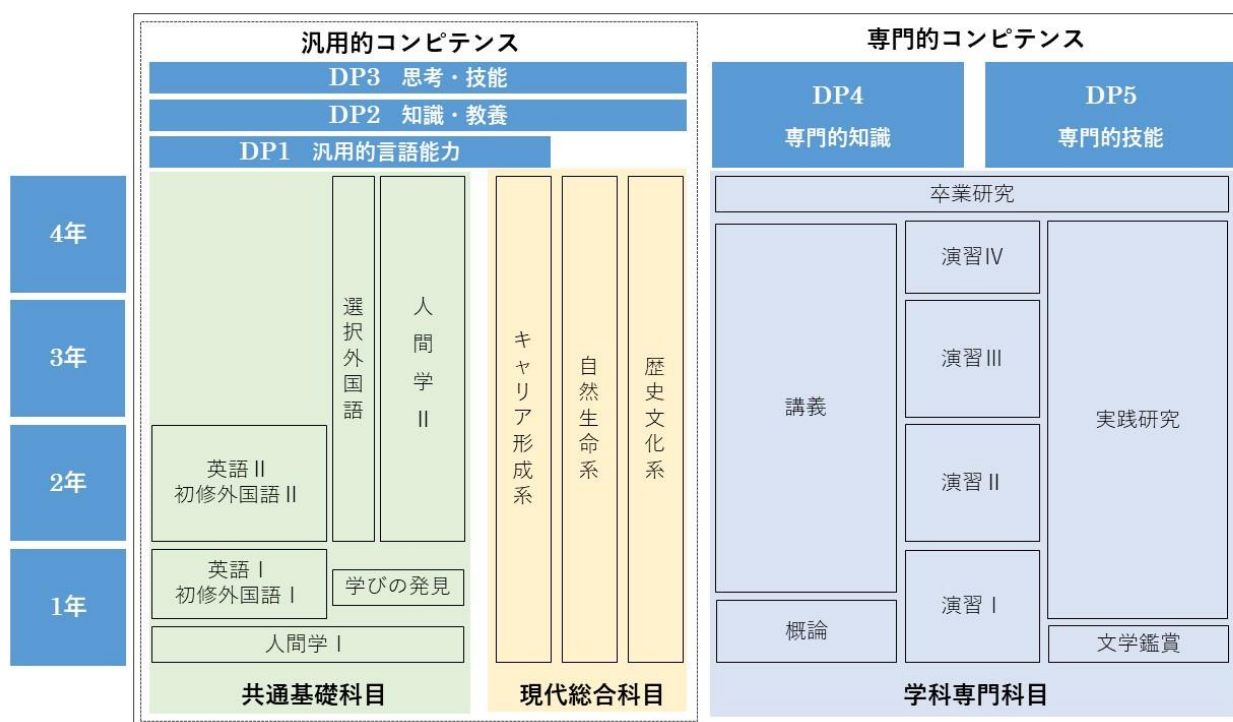
文学における読解、思考、表現の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、基礎的な文献読解等を通じて多様な文学世界を知る「文学鑑賞」や言語・文学の体系を本質的に理解する【概論】等を通じて、文学を概観するとともに個別の課題を学問全体の中に位置づけ、専門に関する体系的理解を図る。2年次には、各コースに分かれ、個別の作品を読解し知識を手に入れる【講義】・【実践研究】等を通じて、課題を見出す読解力を養う。3年次には、専門的知識をもって作品読解をすすめる「特殊講義」「特殊演習」等を通じて、課題探求力を高める。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やところへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握し、3 年次以降ゼミ（文学科演習Ⅲクラス）の分属を決定するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果をルーブリックを活用した学科審査会の議を経て評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

≪社会学部 現代社会学科≫

現代社会学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

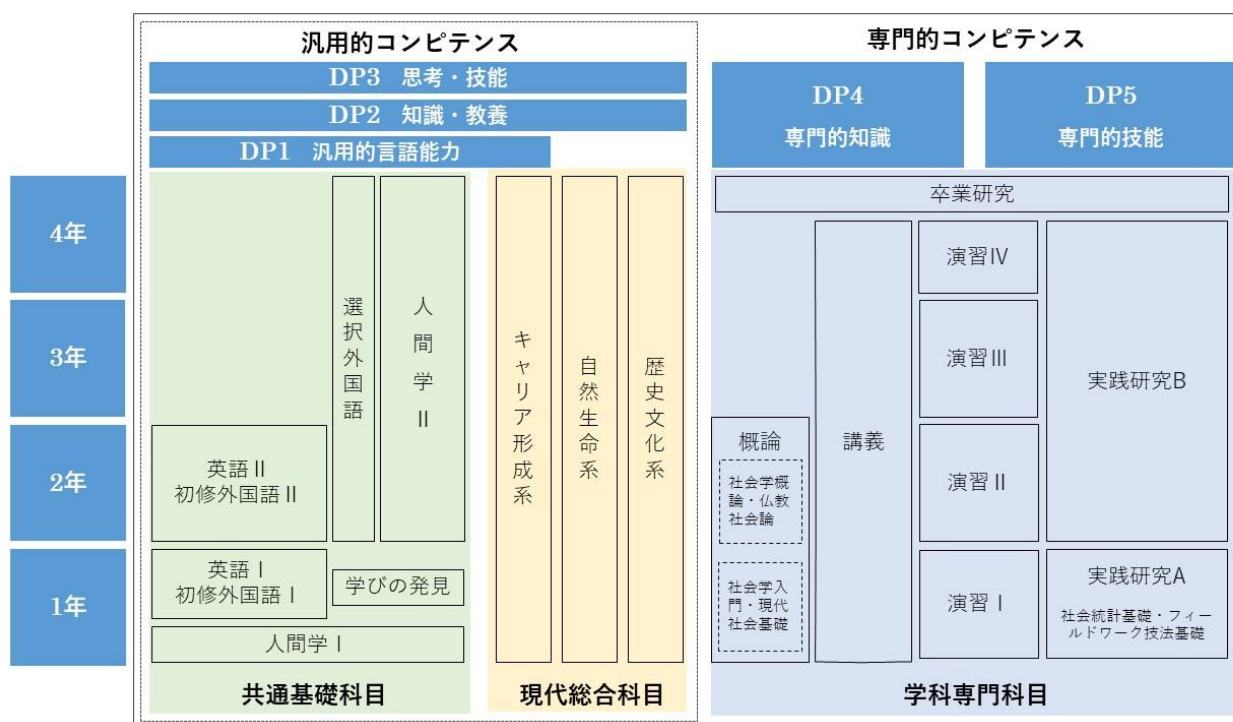
社会学における読解、思考、表現の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、社会学の基本的な視点・考え方を学ぶ「社会学入門」や現代社会の基礎的知識・トピックを学ぶ「現代社会基礎」、社会調査の技法・倫理の基礎的知識・態度を身につけ、質的・量的データを適切に分析・評価するための能力を修得する「社会統計基礎」「フィールドワーク技法基礎」等を通じて、現代社会学を概観するとともに個別の課題を学問全体の中に位置づけ、専門に関する体系的理解を図る。2年次には、社会学の主要な理論や概念、社会学者の多様な業績を通して社会学的思考の理解を深める「社会学概論」、現代社会の諸課題について仏教的視点から学ぶ「仏教社会論」を必修とする。また2年次以降は、現代社会の諸領域を探究するための3つの視点（公共社会・人間関係・現代文化）に分かれ、演習でのアクティブラーニングを軸に据えながら視点ごとの専門的知識を養う。選択科目群である【実践研究B】では、学問的探究において必要となる実際的な知識と技法を、主体的実践を通じて修得する。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やこころへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

《社会学部 コミュニティデザイン学科 地域政策学コース・情報メディアコース》

コミュニティデザイン学科 地域政策学コース・情報メディアコースでは、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

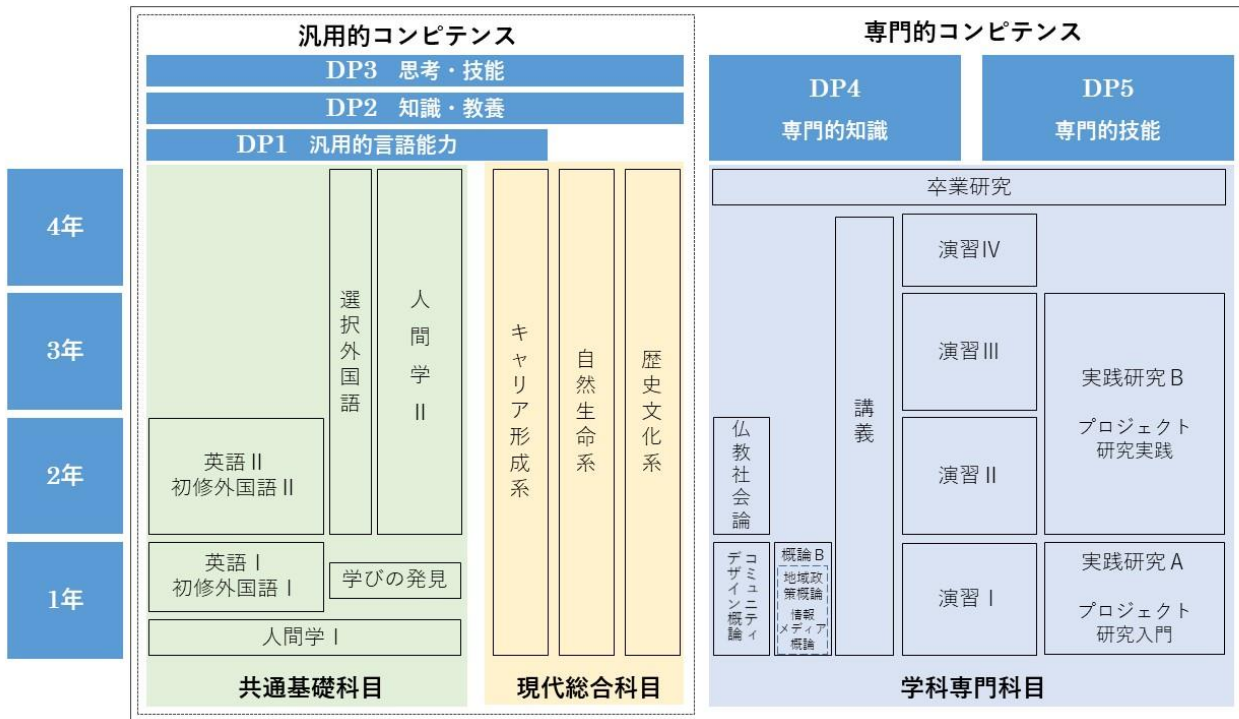
コミュニティデザインにおける読解、思考、表現の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、地域コミュニティの今日的課題や、コミュニティデザインのために必要な基礎知識を理解する「コミュニティデザイン概論」、地域の暮らしを理解する「生活問題論」、具体的な実践（フィールドワーク）を通して学ぶ「プロジェクト研究入門」、情報社会の基本を理解する「メディアと市民社会」「情報と倫理」、社会問題へのアクションの一形態として「ボランティア論」「市民活動論」などによって今日の地域社会の現状と課題を理解する。2年次には、現代社会の諸課題について仏教的視点から学ぶ「仏教社会論」を必修とする。また、地域政策学コースと情報メディアコースに分かれ、フィールドに出向いて学びを進める「プロジェクト研究実践」を通じて具体的な内容をテーマにした研究及び実践的な手法を修得する。更に、地域社会の基本を理解する「社会問題論」、現代社会の基本的構造を理解する「コミュニティ形成論」「地域と経済」などによってプロジェクトを遂行するために必要となる専門的な知識を養う。3年次には、2年次から継続して「プロジェクト研究実践」を学びの軸としつつ、「地方自治論」「コミュニティプランニング論」などを通じて地域社会の様相を概観するとともに個別の課題を学問全体の中に位置づけ、専門に関する体系的理解を図る。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やこころへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

《社会学部 コミュニティデザイン学科 社会福祉学コース》

コミュニティデザイン学科 社会福祉学コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

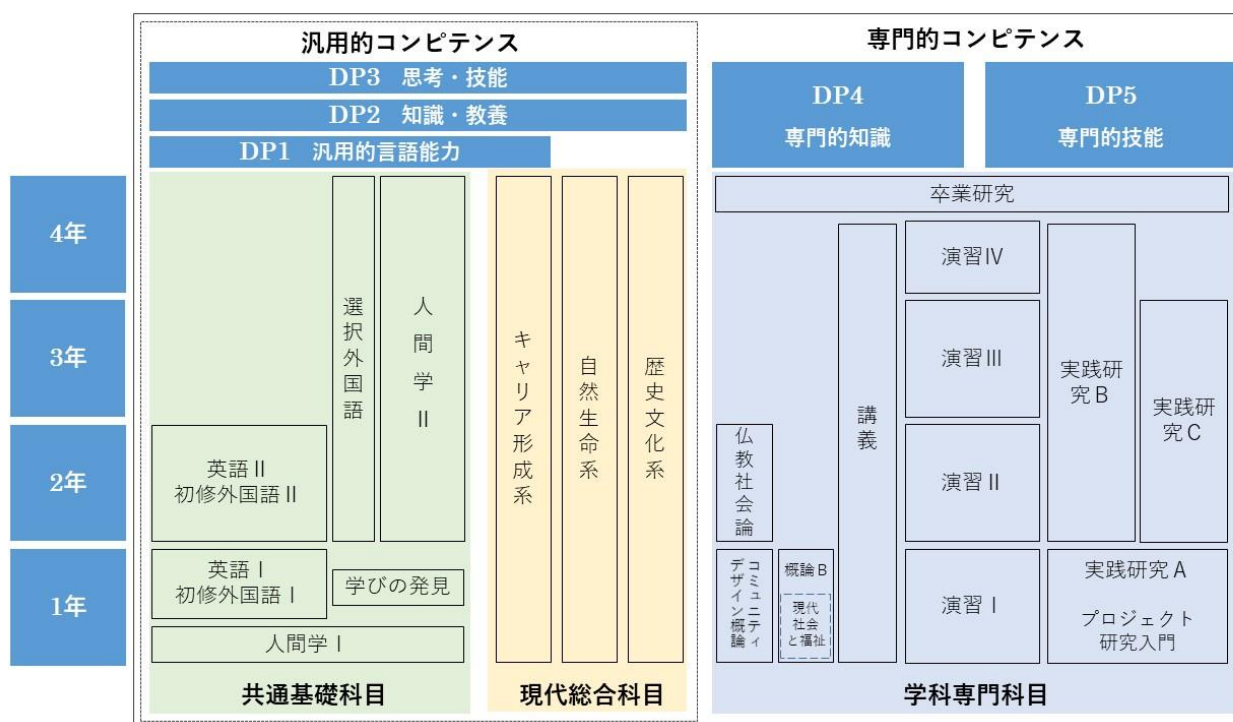
社会福祉学における理念、哲学、実践の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、地域コミュニティの今日的課題やコミュニティデザインのために必要な基礎知識を理解する「コミュニティデザイン概論」、具体的な実践（フィールドワーク）を通して学ぶ「プロジェクト研究入門」、地域の暮らしと福祉の基本を理解する「生活問題論」や「高齢者福祉」「障害者福祉」「児童福祉」「現代社会と福祉」などで、それぞれの現状の課題と歴史を理解するとともに個別の課題を学修全体の中に位置づけ、専門に関する体系的理解を図る。2年次には、現代社会の諸課題について仏教的視点から学ぶ「仏教社会論」を必修とする。また、社会福祉の制度政策等を理解する「社会保障論」「地域福祉論」、社会福祉士資格取得を射程に入れた実践研究「社会福祉援助技術演習1・2」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ」を通じて、社会福祉実践者としての専門的知識を身につける。3年次には、社会福祉事業所での現場実習である「社会福祉援助技術現場実習」や「社会福祉援助技術演習3・4」「社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ」を通じて福祉専門職としての専門性と技能を高める。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やところへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

《教育学部 教育学科 初等教育コース》

教育学科 初等教育コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

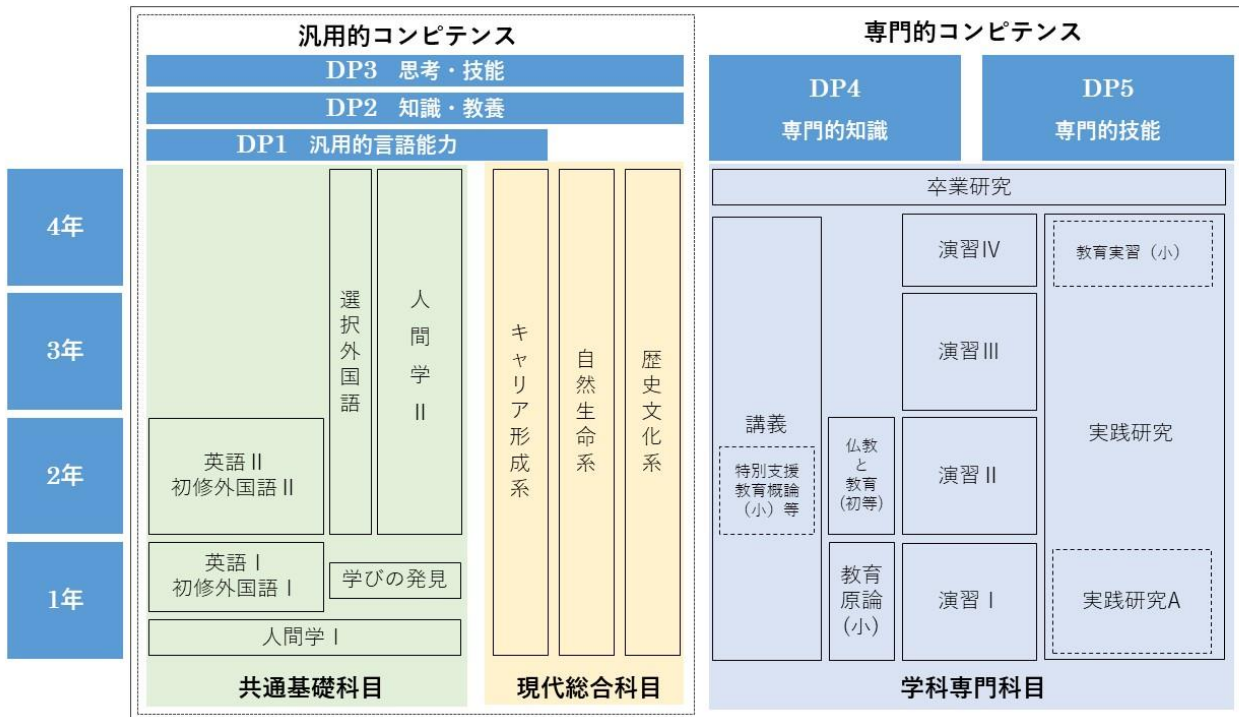
教育学における知識、思考、技能を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、教育の概念、教育実践の歴史、教育思想の歴史について考える「教育原論」や、学校等の現場での活動を体験し自身を振り返る【実践研究A】等を通じて、教育学を概観するとともに個別の課題を教育学・教育実践全体の中に位置づけ、専門的知識・技能に関する体系的理解を図る。2・3年次には主として、各コース共通の中核となる領域について学ぶ【講義A】（「特別支援教育概論（小）」等）と、各コースの専門領域の中心及び最新の研究動向に関わる【講義B】を通じて、専門的知識に対する理解をさらに深める。また、各教科等の専門領域に対応した技能の修得を目指した【実践研究B】を通じて、教育実践力も磨いていく。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、「教育実習（小）」や【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やところへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は20名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DPと各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため2年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

《教育学部 教育学科 幼児教育コース》

教育学科 幼児教育コースでは、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】、2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

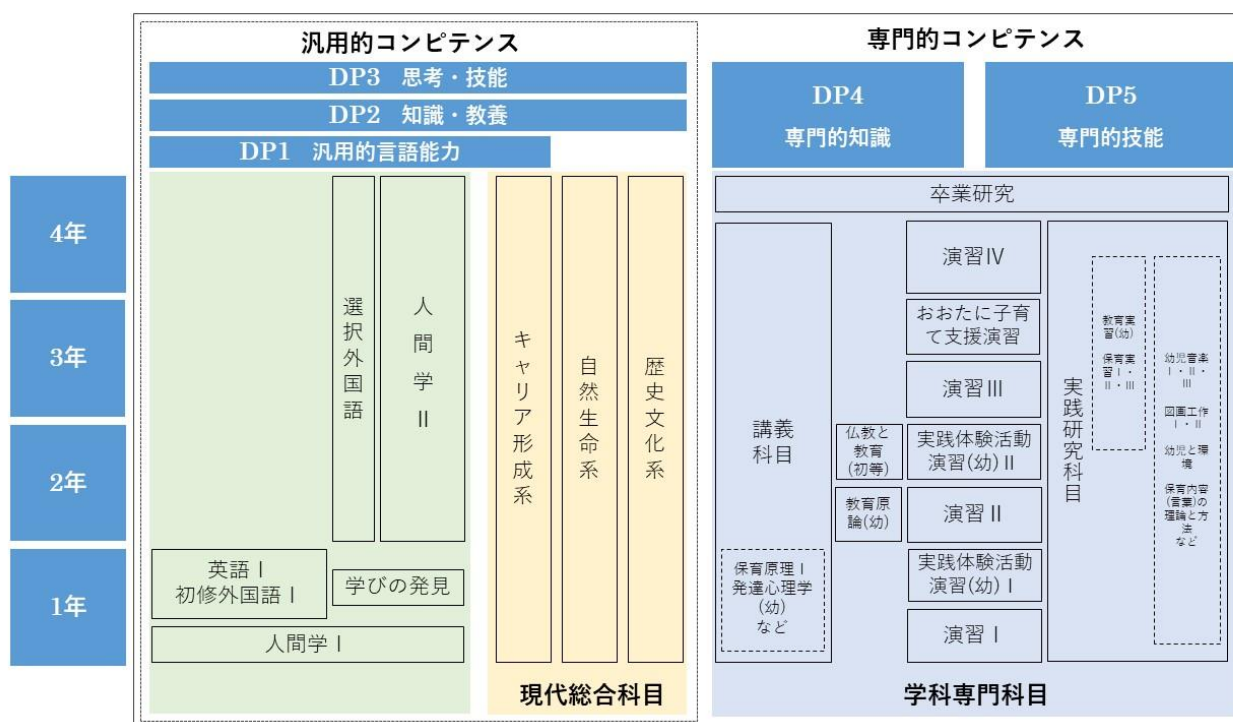
幼児教育・保育における知識、思考、技能を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、「実践体験活動演習（幼）Ⅰ」での幼児教育・保育現場における学びを核に位置づけ、幼児教育・保育等の制度的特色や役割を理解する「保育原理Ⅰ」や心身発達の諸相を中心に子どもを生涯発達の観点から理解する「発達心理学（幼）」等を通じた実践と理論の往還により、専門に関する体系的理解を図る。2年次も同様に、幼児教育・保育現場を体験する「実践体験活動演習（幼）Ⅱ」を軸として、「幼児音楽」「図画工作」「幼児と環境」等を通じて、保育者としての専門的知識を身につけるとともに、保育に必要とされる基礎技能を養う。3年次には、「保育実習」や「教育実習（幼）」を中心に据え、保育内容の指導法に関する「保育内容（言葉）の理論と方法」や子育て支援事業に取り組む「おおたに子育て支援演習」等を通じて、保育者としての資質や専門性を高める。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やこころへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は 20 名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DP と各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それによって厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握し、3 年次以降のゼミ（幼児教育演習Ⅲ・Ⅳ）の分属を決定するために 2 年次末に実施する「研究計画書」の内容、ならびに学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

≪国際学部 国際文化学科≫

国際文化学科では、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた能力を身につけるために、以下のとおり教育課程を編成、学修方法を実践し、学修成果を評価する。

(1) 学修内容・順次性に関する方針

① 共通基礎科目

1年次に仏教思想を通じて人間に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う「人間学Ⅰ」と、大学入学までの学習から大学入学後の主体的な学修への転換とともに専門的な学修への接続を図る「学びの発見」、1・2年次に言語を学びながら文化の多様性に触れる【必修外国語】を学修する。加えて【選択外国語】を必修とし、【必修外国語】、学科専門科目【実践研究】と合わせて外国語運用能力を伸ばしていく。2年次以降にさまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する「人間学Ⅱ」を学修する。

② 学科専門科目

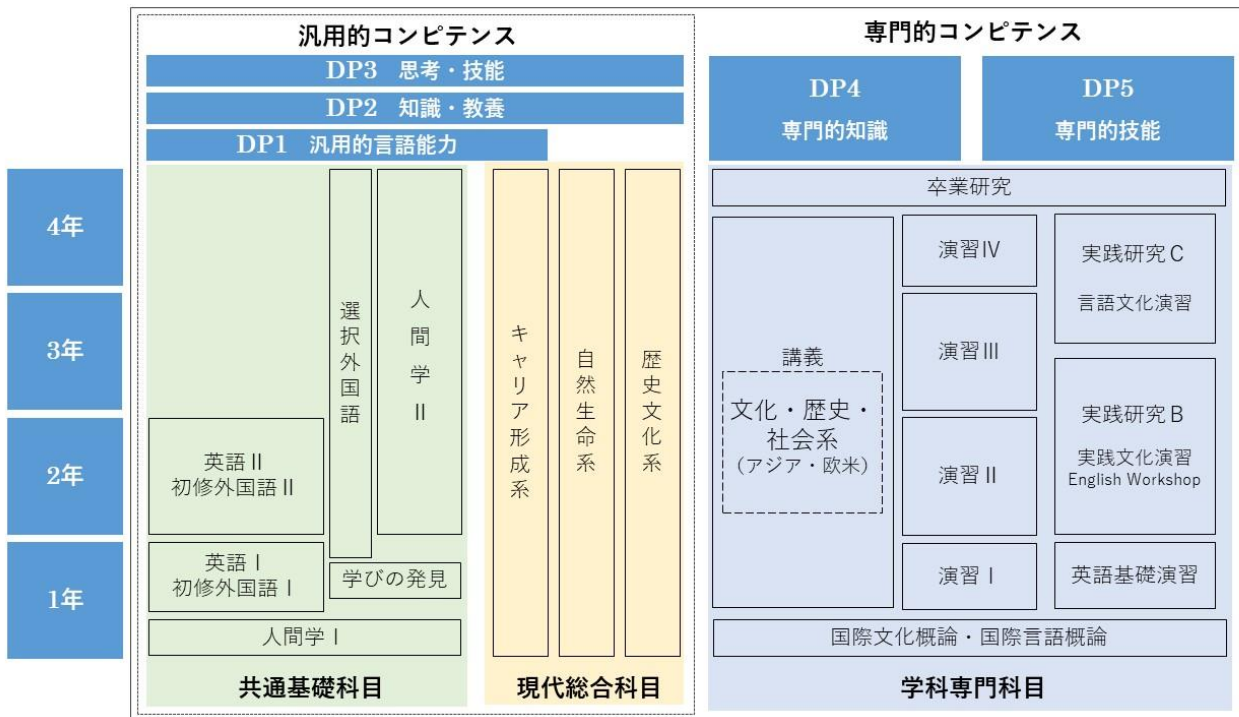
国際文化学における読解、思考、表現の方法を段階的に修得し、卒業研究に必要な探究能力を培う【演習】を1～4年次の4年間にわたって必修として学修する。

1年次には、前期に世界の文化の多様性と文化研究の多様な観点を理解するための「国際文化概論」、後期に言語と文化の関わり、および世界で話される言語の広がり多様性を理解して多言語状況への対応力を高めるための「国際言語概論」を必修とし、国際文化理解に必要な理論とケーススタディーを学び、国際文化学の概括的な理解を図る。また、「英語基礎演習」では、グローバル化社会にあって欠かすことのできない英語の運用能力を涵養する。2年次には、各コースに分かれ、【講義】では、文化、歴史、社会などの観点から、各地域文化の理解を深める。基礎をふまえて外国語実践力を涵養する【実践研究】では、「実践文化演習」「English Workshop」からなる【実践研究B】において、国内外でネイティブとの交流を活かして外国語の運用能力を集中的に高める。ただし、海外研修のうち、隔年実施となるものや、必ずしも語学力が必須でない文化研修については、学生が在学期間中に参加できる機会を確保するため、1年次からの受講も可能としている。【実践研究C】は、英語については2年次から「World News」「Teaching English to Children」などで目的別の実践的英語力を養う。3年次には、【講義】を履修することで、「演習」で進める専門領域に対応した研究を補うほか、【実践研究C】の「言語文化演習」を通して外国語文献の読解力も養成する。4年次には、それまでの学びを通じて身につけた知識・技能を駆使し、【卒業研究】においてその成果を表現する。

③ 現代総合科目

1～4年次にわたり共通基礎科目や学科専門科目と並行して、社会的に貢献するための幅広い知見を身につける【キャリア形成系】、自らを取り巻く自然環境を知り命やこころへの理解を深める【自然生命系】、世界の歴史と文化を多角的に理解する【歴史文化系】の3つの系からなる科目群を体系的に学修する。

<カリキュラム・マップ>



※授業科目と DP や DP を構成するコンピテンスの正確な対応関係や授業科目の水準等を示すナンバリングは、「履修系統図」に示す。

(2) 学修方法に関する方針

すべての授業は、各授業科目の到達目標に即して講義・演習等を適切に組み合わせて実施する。学科専門科目の根幹をなす【演習】は20名以下の少人数制授業とする。

また、学修者本位の教育の実現を目指し、各授業科目においてアクティブラーニングや学期中の試験やレポート等の課題に対するフィードバックを極力取り入れ、その方法をシラバスにあらかじめ明示する。

(3) 学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、DPと各授業科目の対応関係を示す履修系統図に基づき設定された到達目標と密接に関連する成績評価方法や基準をあらかじめシラバスに明示し、それに従って厳格に学習成果を評価する。

そして、学位プログラム全体においては、各授業科目の成績評価に加え、専門的知識の理解度を中間的に把握するため2年次末に実施する「研究計画書」の内容、学位プログラムにおける学修の到達点と位置付ける卒業研究の結果を評価し、「卒業認定・学位授与の方針」に定める能力に到達しているか総合的に学修成果を判断する。

(2) 文学部 仏教学科

科目区分	授業科目	履修単位	学年配当	ナンバリングコード	DP1				DP2				DP3				DP4					DP5																		
					01 読む	02 書く	03 聞く	04 話す	01 社会的職業的自立に係る教養	02 自然科学に係る教養	03 人文社会科学に係る教養	04 ICTに係る知識	05 自己理解	06 他者理解・共感	07 多様性理解	01 分析的思考	02 批判的思考	03 論理的思考	04 創造的思考	05 コミュニケーション	06 プレゼンテーション	07 協調・協働	08 情報リテラシー	00 建学の理念に係る基本的理解	01 仏教思想	02 仏教の展開	03 現代社会における仏教	04 仏典の知識	05 仏教文献の言語知識	01 仏教文献の読解力	02 仏教思想を基盤とした思索能力	03 専門的表現力								
演習	仏教学演習Ⅰa	2	1	4 BS-11 CPI 1 2	○	○	○					○			○	○					○																			
	仏教学演習Ⅰb	2	1	4 BS-11 CPI 1 2	○	○	○					○			○	○					○																			
	仏教学演習Ⅱa	2	2	4 BS-11 CPI 2 2	○	○	○	○							○	○					○	○		○																
	仏教学演習Ⅱb	2	2	4 BS-11 CPI 2 2	○	○	○	○							○	○					○	○		○																
	仏教学演習Ⅲa	2	3	4 BS-11 CPI 3 2												○						○	○		○											○				
	仏教学演習Ⅲb	2	3	4 BS-11 CPI 3 2												○						○	○		○											○				
	仏教学演習Ⅳa	2	4	4 BS-11 CPI 4 2												○	○	○	○			○															○			
仏教学演習Ⅳb	2	4	4 BS-11 CPI 4 2												○	○	○	○			○															○				
概論	仏教学概論1	2	1~4	4 BS-11 CPI 1 1			○								○		○				○	○														○				
	仏教学概論2	2	1~4	4 BS-11 CPI 1 1			○								○		○				○	○															○			
	仏教学概論3	2	1~4	4 BS-11 CPI 1 1			○								○		○				○	○															○			
	仏教学概論4	2	1~4	4 BS-11 CPI 1 1			○								○		○				○	○															○			
講義	A	大乘仏教入門	2	2	4 BS-11 CPI 2 1			○						○	○	○				○	○	○														○				
	B	インド仏教思想論1	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○							○	○	○					○	○														○			
		インド仏教思想論2	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○					○	○													○			
		中国仏教思想論1	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○					○	○													○			
		中国仏教思想論2	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○					○	○													○			
		日本仏教思想論1	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○					○	○													○			
		日本仏教思想論2	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○					○	○													○			
		中国仏教史	2	2~4	4 BS-13 HAA 2 1	○	○	○																														○		
		日本仏教史	2	2~4	4 BS-13 JAH 2 1	○	○	○																														○		
	浄土教史概説	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1											○	○	○					○	○													○				
	宗教史1	2	3~4	4 BS-11 PHE 4 1																																	○			
	宗教史2	2	3~4	4 BS-11 PHE 4 1																																	○			
	C	インド学	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○																				○		
		現代仏教論	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○								○	○	○																					○	
		現代と真宗	2	2~4	4 BS-11 RES 2 1											○	○	○					○																○	
		死生学	2	1~4	4 BS-11 PHE 2 1																																		○	
		生命倫理	2	1~4	4 BS-11 PHE 2 1																																		○	
		人間関係学	2	1~4	4 BS-11 PHE 2 1																																		○	
		地域仏教論	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 1			○																															○	
		仏教学特殊講義1	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 1																																		○	
		仏教学特殊講義2	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 1																																		○	
仏教学特殊講義3		2	3~4	4 BS-11 CPI 3 1																																			○	
仏教学特殊講義4		2	2~4	4 BS-11 CPI 3 1																																		○		
実践研究		A	仏教文献基礎演習a	2	1	4 BS-11 CPI 1 2	○															○																		
		仏教文献基礎演習b	2	1	4 BS-11 CPI 1 2																		○																	
	B	現代仏教演習	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2			○							○	○	○																					○	○	
		地域仏教演習	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2	○										○	○																						○	○
		初期仏典を読む	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2	○										○							○																○	○
		浄土経典を読む1	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2											○	○	○					○	○															○	○
		浄土経典を読む2	2	1~4	4 BS-11 CPI 1 2											○	○	○					○	○															○	○
		浄土経典を読む3	2	1~4	4 BS-11 CPI 1 2											○	○	○					○	○															○	○
		維摩経を読む	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2	○										○							○																○	○
		法華経を読む	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2	○										○							○																○	○
		欧文仏典を読む1	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2											○	○	○					○	○															○	○
		欧文仏典を読む2	2	2~4	4 BS-11 CPI 2 2											○	○	○					○	○															○	○
		仏教学特殊演習1	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 2																																		○	○
		仏教学特殊演習2	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 2																																		○	○
		仏教学特殊演習3	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 2																																		○	○
	仏教学特殊演習4	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 2																																		○	○	
	仏教学特殊演習5	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 2																																		○	○	
	仏教学特殊演習6	2	2~4	4 BS-11 CPI 3 2																																		○	○	
	C	臨床フィールドワーク	2	3~4	4 BS-11 CPI 3 2										○	○	○																					○	○	
パーリ語a		1	2~4	4 BS-11 CPI 2 3	○										○	○																						○	○	
パーリ語b		1	2~4	4 BS-11 CPI 2 3	○										○	○																						○	○	
サンスクリット語a		1	1~4	4 BS-11 CPI 1 3	○										○	○																						○	○	
サンスクリット語b		1	1~4	4 BS-11 CPI 1 3	○										○	○																						○	○	
古典チベット語a		1	2~4	4 BS-11 CPI 2 3	○										○	○																						○	○	
古典チベット語b	1	2~4	4 BS-11 CPI 2 3	○																																				

